





俺は山下涼介、
18歳、
格闘家である。



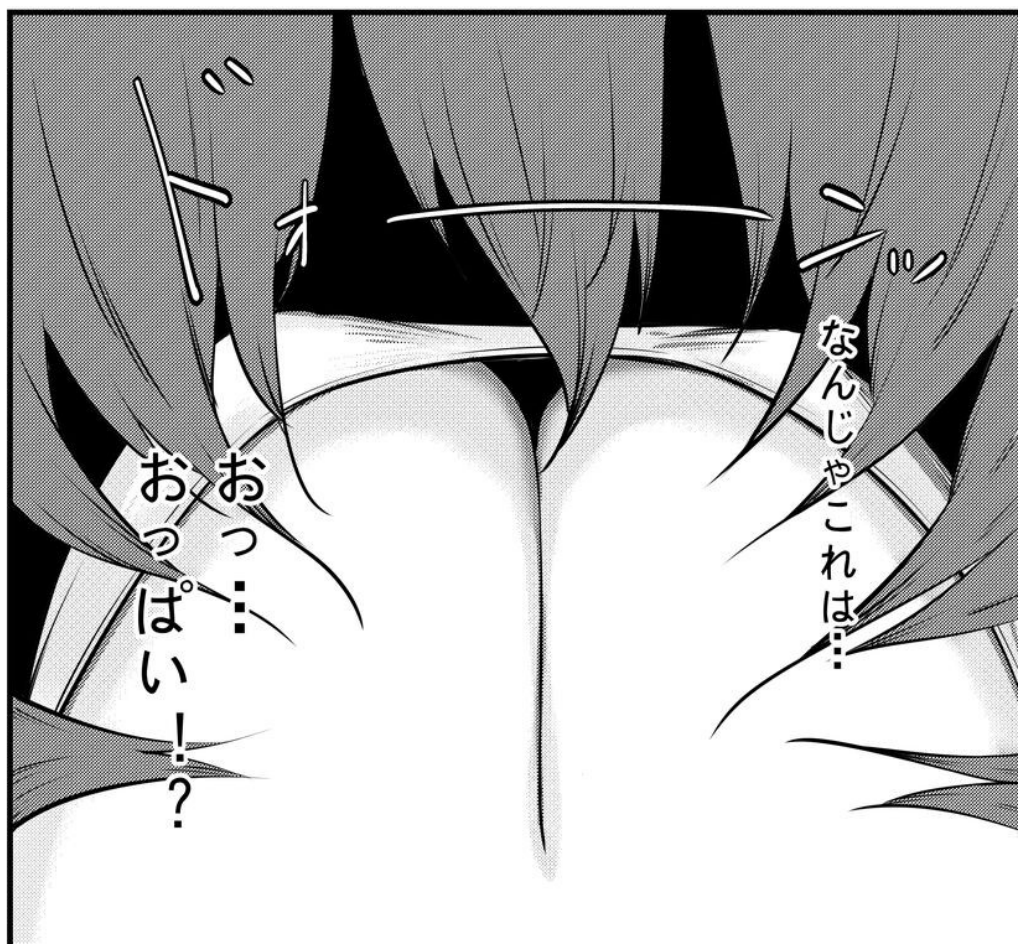
今朝トイレに
行ったら、
ちんぽが
見つからなく
なってしまった

それに…

え？



顔は…？



なんじゃこれは…

おっ…
おっ…
はい！？





でもなぜ？

なぜ俺は
女の子に
なってしまうた

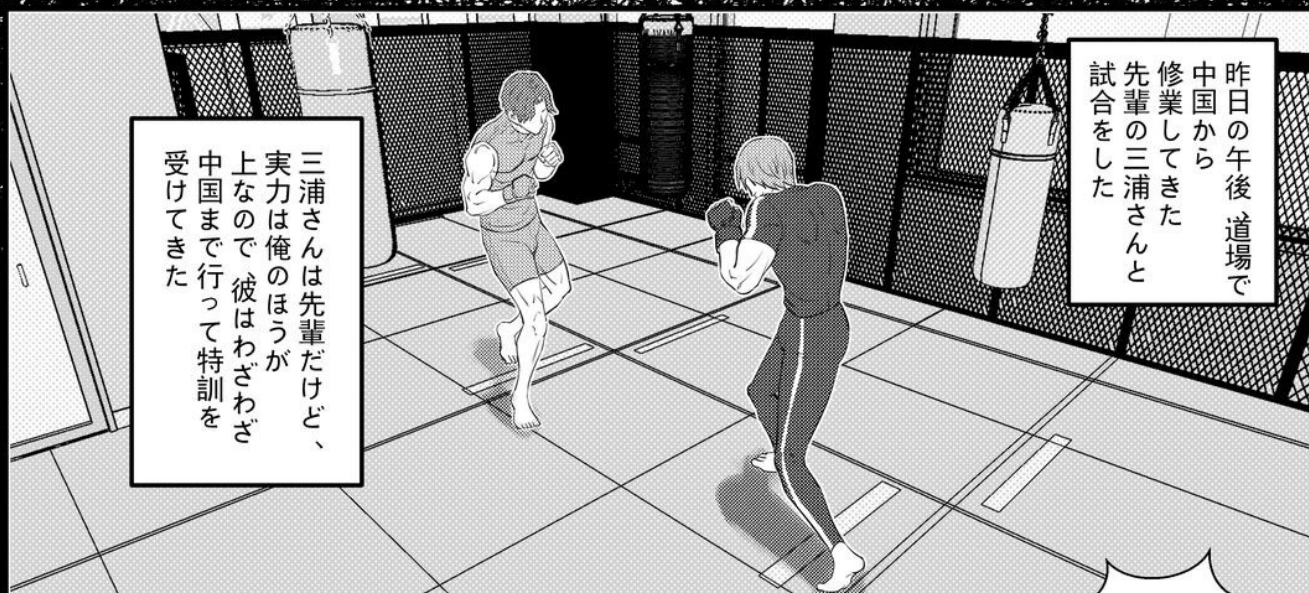
そしてなぜ俺は
ここにいますか？

昨日...



本当に
俺なのか？

よく見たら
めっちゃめっちゃ
可愛いじゃないか



昨日の午後 道場で
中国から
修業してきた
先輩の三浦さんと
試合をした

三浦さんは先輩だけど、
実力は俺のほうが
上なので彼はわざわざ
中国まで行って特訓を
受けてきた



俺

先輩！中国で
学ばれたものを
見せてください！



もつと
すじりもの？



点穴！



三浦直樹
20

相変わらず、
無鉄砲だね、
涼介
俺が学んだのは
普通の拳法ではなく
もつとす
ごいものなんだよ



おでこに指のあとが
まだ残っている…
どうやら秘孔を
突かれたようだ

その後何が
あったのか
全く覚えていない……



なんの
術なのか、

マジック？
催眠術？

俺を
自分が女だと
認識させる
幻覚なのか

でもどう見ても
本物のようだ



でっか!!

これ俺の胸?!



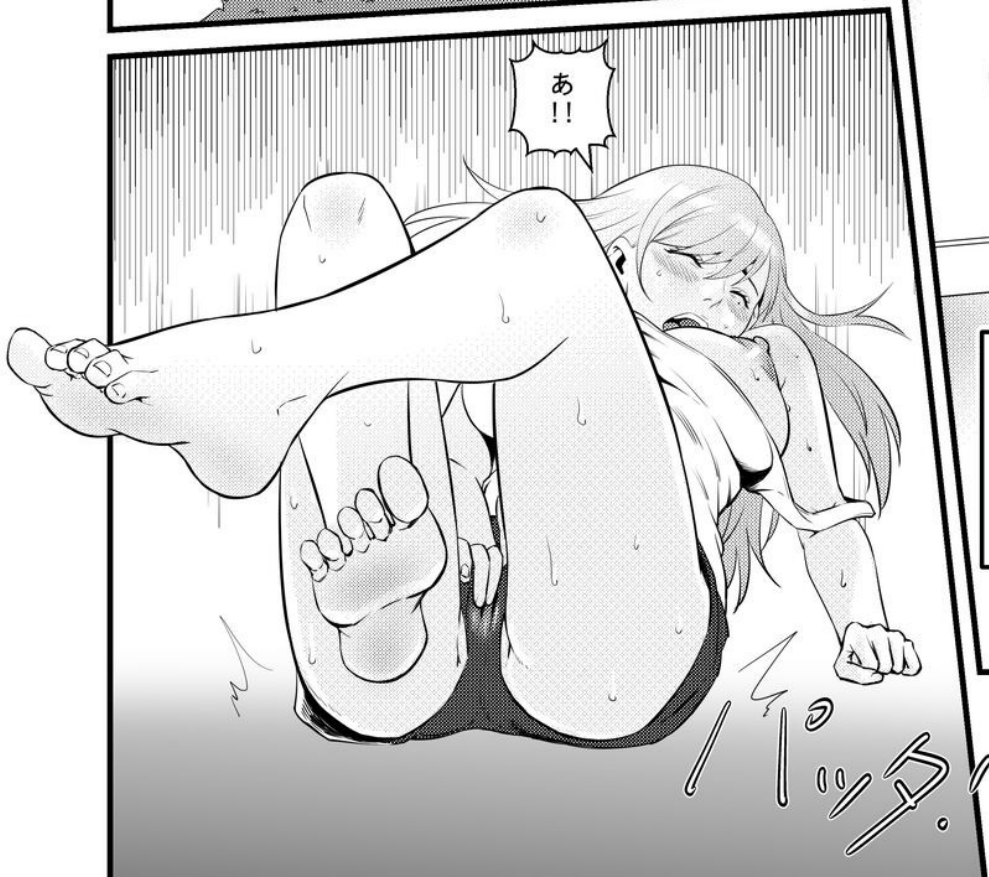
ギュウ!



こうなったら!

触ってみよ!!







ふー

これが
女のオーガズムか？
男とは全然違うな

異世界に
いったって感じ

この気持ち、
やみつくわー

くそずるいなあ、
女っていつも
こんなに
気持ちいいのか。

ふわふわ

まだ先輩の術が
解けていないのか。

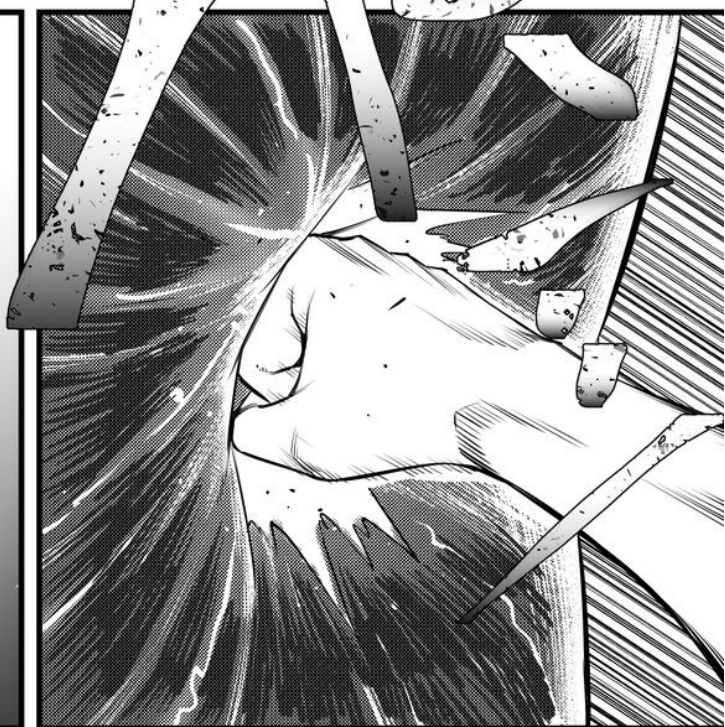
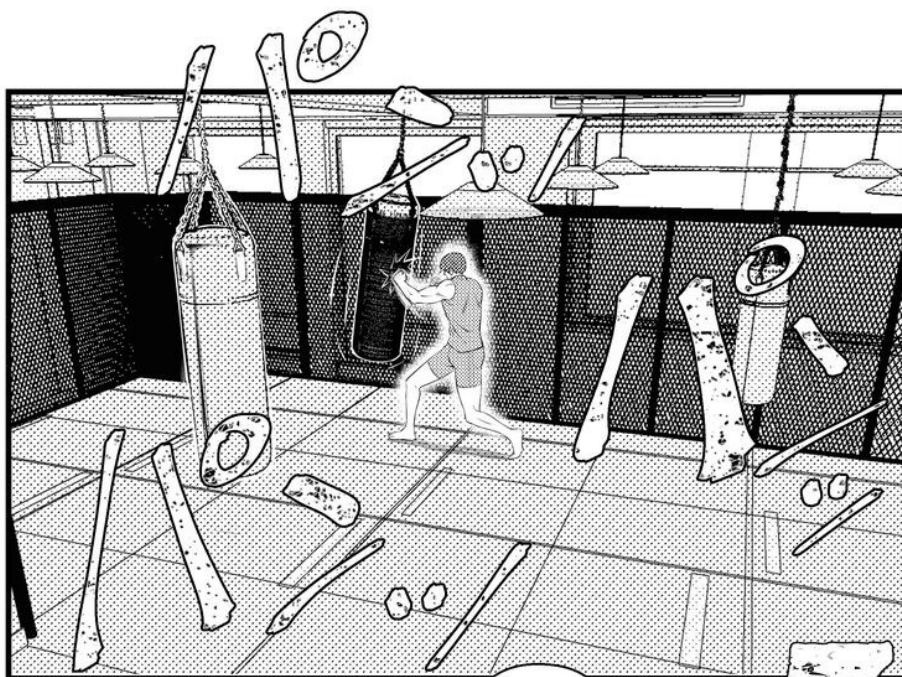
俺は…

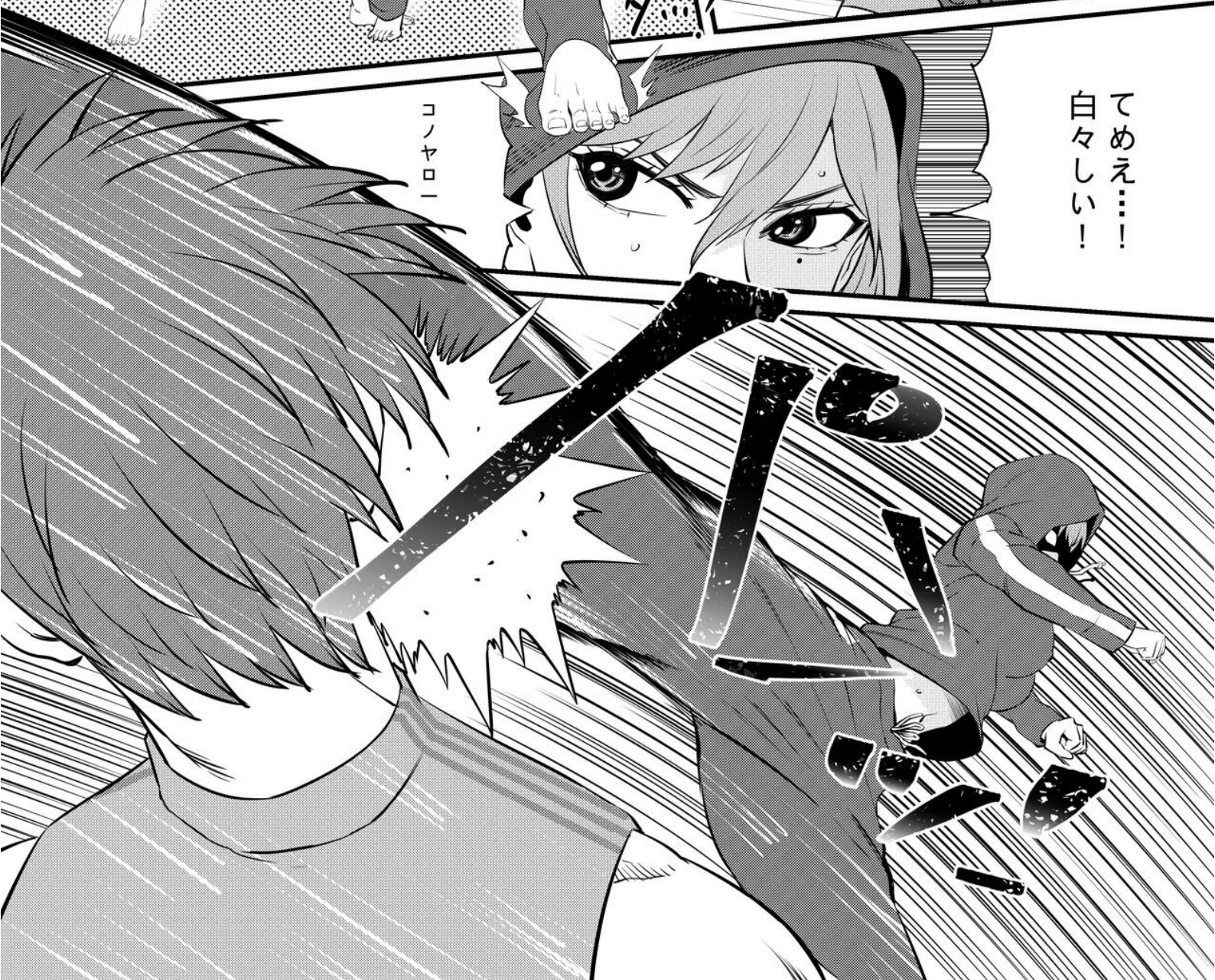
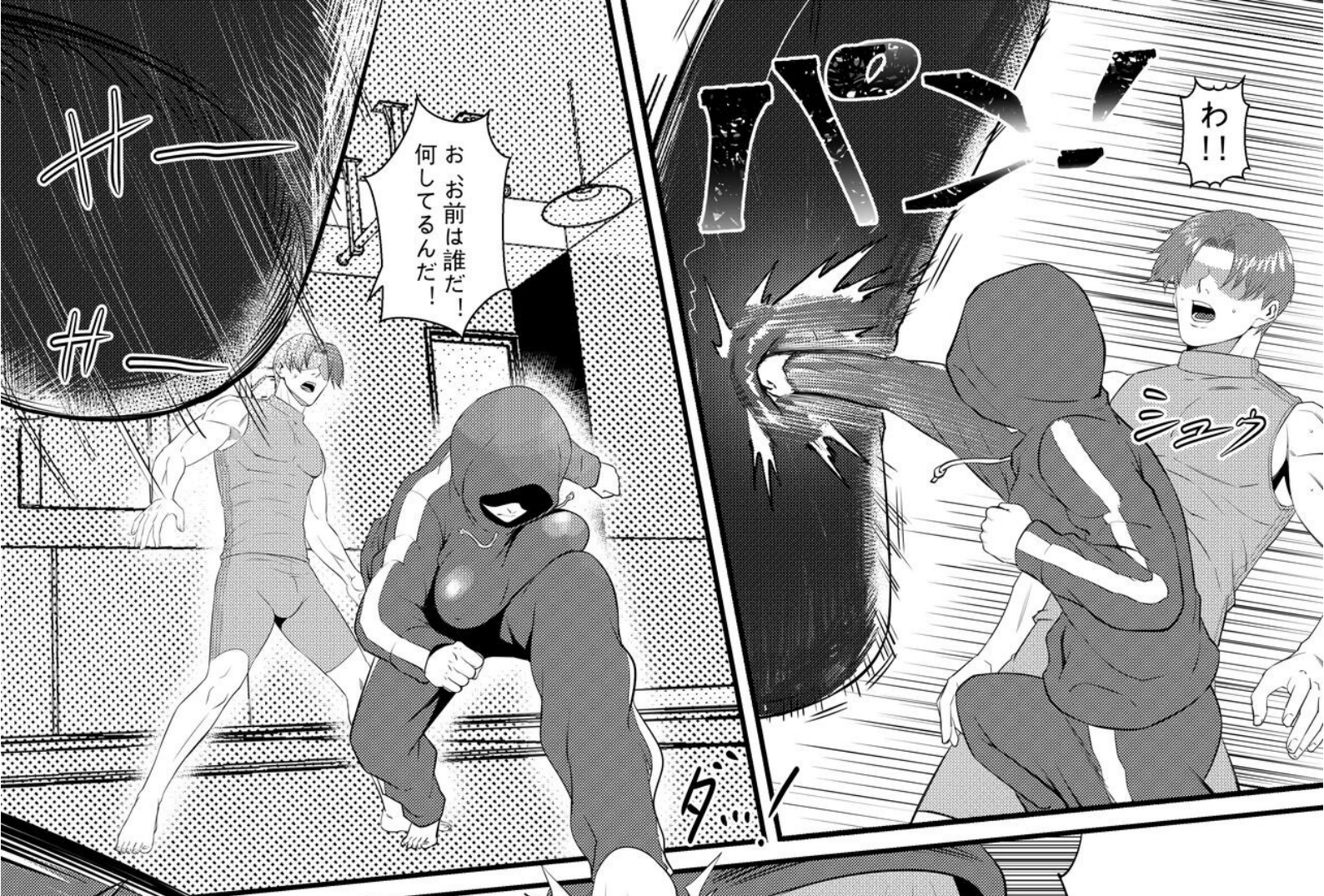
一体何を
しているのか……



あの野郎……









山下涼介だよ!!

よく見る、俺だよ!



やめろ!

女でも容赦はしねえぞ!

女?

涼介...?

君はもう乾坤点穴大法を完璧に習得している。大切に使いなさい



乱用しないようにくれぐれも注意しろ。

承知いたしました

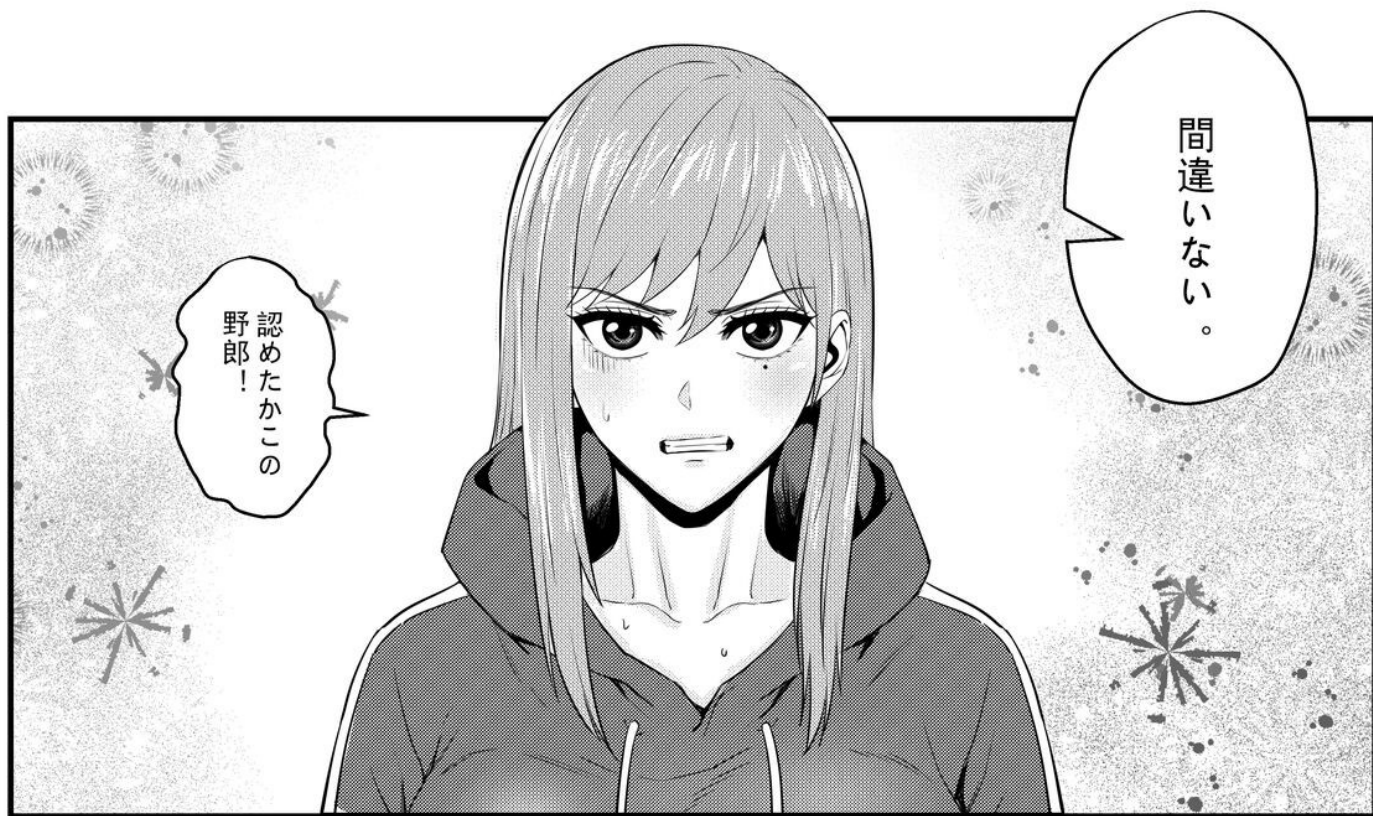


ありがとうございます。師匠



あのじじいがでたらめを言っていると思っていたが...

なるほどそういうことか...

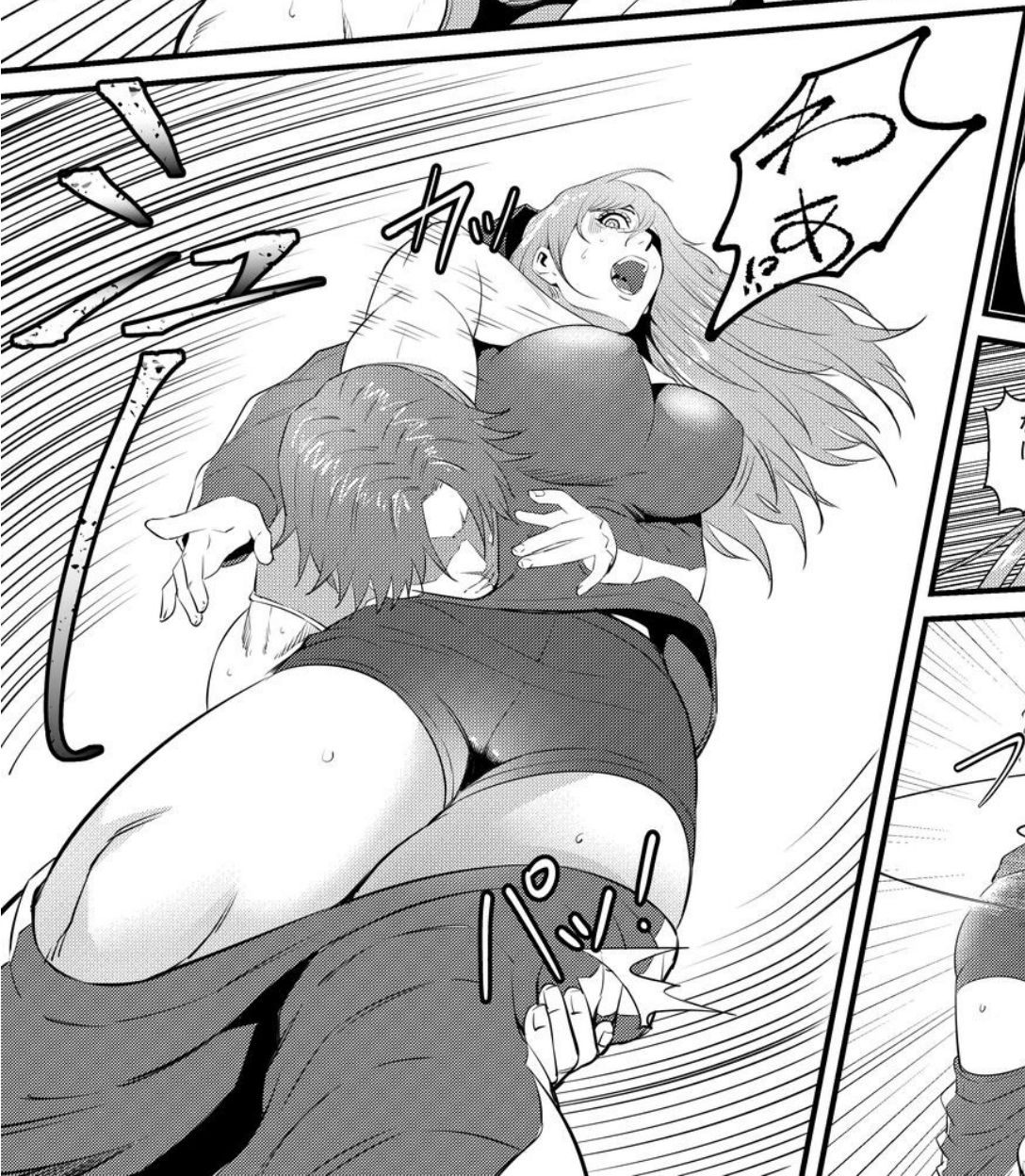


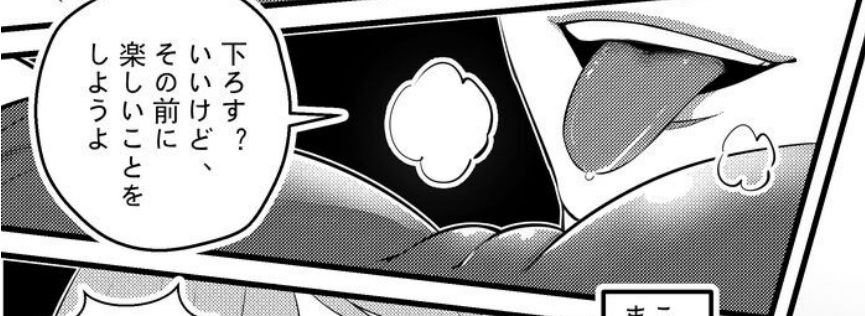
いっしょに



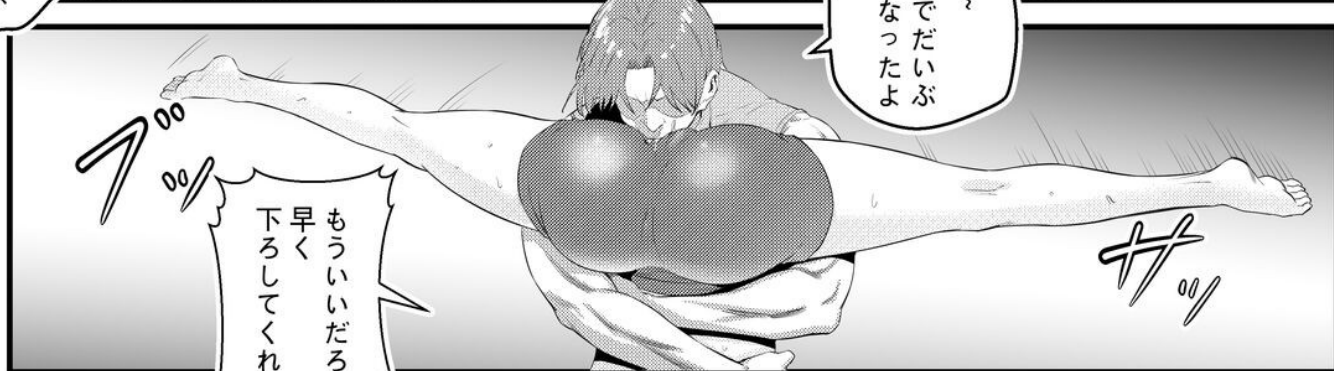
逃げるな!!







おろせ！



おお、
ピンクじゃん、
かわいいなあ

嘘だろ!?
こいつ
イカレてんの?

おい! 下ろすって
言っただじゃないか!
このウソつき!

それに俺は男だぞ。
気持ち悪くないのか?

ん? 男?
どこの男がこんな
かわいいおまんこが
ついてるんだ?

いちごみたいに
美味しそうだわ...

いただきます

ギャー
やめろ!!

下ろしてくれ!
アハ! ア!

やめろ!
ああ!!

暖かくて柔らかくて、
なんか気持ちいい

べろか!? べろを
入れてきたのか!?

やめろ!!



くそ、
死にたい…

先輩の前で
イッてしまった、
恥ずかしすぎる…

お前、
結構感じ
やすいん
じゃないか？

え？
もうイッちゃうの？



くそっ、
なんかお前が
うらやましく
思っちゃったよ。

おい！
また何すんだ？！



乾坤点穴大法は
お前を反対の
存在として
変えてしまうんだ。

ってことは、
男だったときの
お前はけっこう
お強いんだ



俺はまだだぞ

お前はもう
イッたけど、



逃げないと。
これ以上続けたら……

やめて!!

くそっ 足が
ガクガクして、
全能力が入らない……

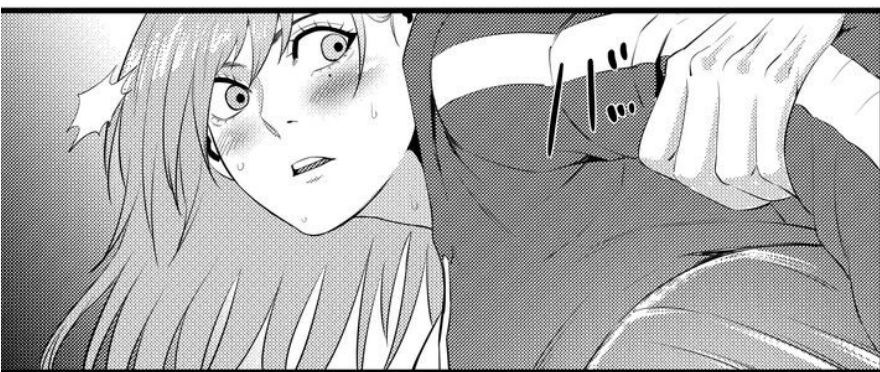


冗談じゃない、

もう勘弁してくれ

性格も臆病に
なっちゃったね……

うへへ……





やめろ!!

おおお、
すげえでけえ

くそっ!
これが男女の
パワーの差か!



きゃー

身動きが
全然取れない…



ダメだ！
また…

またイッたのか？

もうだめだ

参った、
勘弁してくれ



またイッちゃう！



まだ
満足できてない
みたいだね…

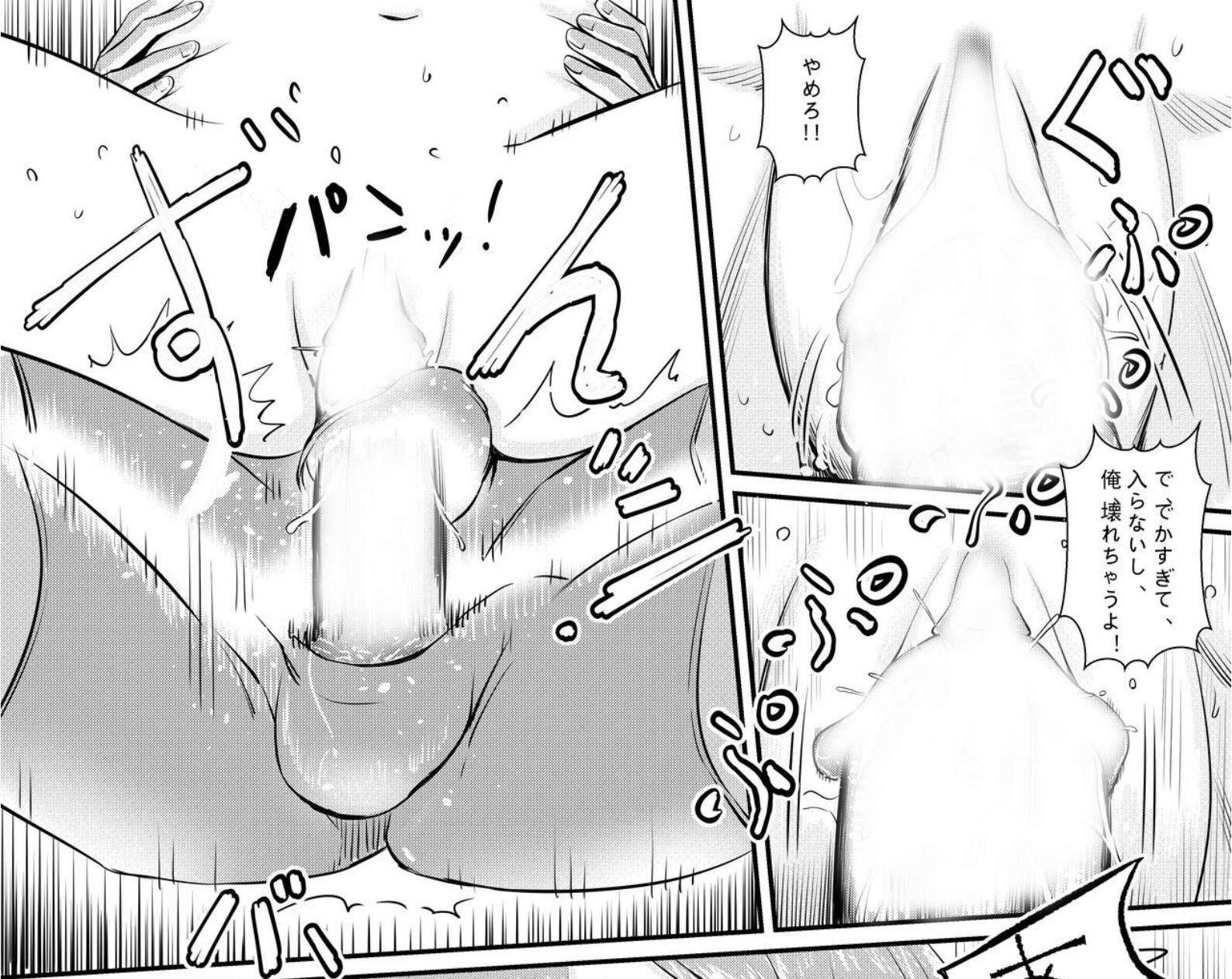
くそこれは
恥ずかしい……

やだ…
もういい



ほらほら、
すごく濡れてるな…





やめろ!!

ででかすぎて、
入らないし、
俺壊れちゃうよ!



あゝあゝ

なんか前よりも
気持ちいい、

下が
満たされていく感じ...
熱くって気持ちいい!!

もう当たってるよ！
刺さっちゃう！！

でも気持ちいい、
止めないで…

ゴーン！

ゴーン！

ゴッ！

ゴッ！

ゴーン！

ゴーン！！

あ！！ま、
待って…

来る！

何か出てきそう！

何が…！！

は！

は！

パッパッ

パッパッ

これって何?
もしかして、
おしっこ
漏らしてんの?
気持ちいい!!

あゝあゝあゝあゝ

あす 随

これって何?
もしかして、
おしっこ
漏らしてんの?
気持ちいい!!

あゝあゝあゝあゝ

あす

随

あああ

淫乱め!

すごいな涼介、
あんなに遠くまで...
まるで噴射じゃん

堕ちる...
それでもまだ欲しい

ズ
ズ
ズ

びく
びく

あああ

淫乱め!

すごいな涼介、
あんなに遠くまで...
まるで噴射じゃん

堕ちる...
それでもまだ欲しい

ズ
ズ
ズ

びく
びく

あぁあ

ズ
ズ
ズ

びく びく

淫乱め!

すごいな涼介、
あんなに遠くまで…
まるで噴射じゃん

墮ちる……
それでもまだ欲しい

あぁあ

ズ
ズ
ズ

びく びく

淫乱め!

すごいな涼介、
あんなに遠くまで…
まるで噴射じゃん

墮ちる……
それでもまだ欲しい

頭が真っ白…
なにも
考えられない…

美しい肉付きだな…
まるでルーブル宮殿の
芸術品だよ…

畜生…お前
本当にあの
嫌なやつ
の涼介か？

あまりにも
可愛いから、

元
に戻したくないんだけど。

そんなつまらないこと
言わずに、
続きをしよう

先輩の言葉は
聞こえるけど、
答えることが
できない

話そうとしても、
口からは
「んんてか出せない。

イキ過ぎて俺が
どうかしちゃったのか。

それとも俺が
諦めて完全に
女性になったのか





彼からそんな
言葉を聞くと、
なぜか
落ちてきてきた…

俺はこの「戦い」に
全身全霊で臨んだ。

先輩に合わせて
体位を変えたり、

積極的に
フェラしたり…

あやべっ！
俺もいぞ
中に出しても

いい？

やめて、
中に出されたら…

しまった！
喋ることが
できない



妊娠する！

安心しろ、
大丈夫だ！

もう
我慢
できない！！

いくぞ！！
あ！！

いや…



煮え滾るザーメンが
子宮内を充滿したと
感じた瞬間、



俺は逆に冷静になり、
現実と向き合えた



ああ、
くたくただよ

試合よりも
疲れるなこれ



あれ？

ちゅる



涼介？
誰それ？
知らないな

おい！
何してるの？
涼介！！

ばかなことを
言うな 涼介は
お前だよ！元
戻してあげるから、
しっかりしろ！

れろ♡
れろ♡



俺は女になった。
先輩とセックスしたい。

私はもう男に
戻れない。

こんなもんで
終わったと
思ってるの？

まだまだですよ、
先輩！
♡

え！？
いいけど、
ちよっと
休ませて、
な？



だったら、

ちよつつ：：
ちよっと待って！！

私も私なりに
仕返してやる！

うあああ！！
お願いだから、
ちよっと
休ませてくれ！

涼介~~~~~

END

読んでくださってありがとうございます。
初めてこのタイプの作品を描いてみました。
もし皆様お気にいってくださったら、
この物語の続きを描くつもりです。
また、次の作品の制作に努力します。
ありがとうございました。

